



11月2週目

工事の げんば 現場より

きゅうとうけいじぶつてん ゆか せん よ じょう かわら め じ たてもの たい なな
旧東慶寺仏殿の床は「塼」と呼ばれるタイル状の瓦を、目地（つなぎ目）が建物に対して斜め45
ど なら し つ しはんじき こうじ ともな と はず まえ い ち
度に並べて敷き詰めた「四半敷」というものです。工事に伴い取り外しましたが、その前に位置を
きろく もと い ち もど ふっきゅう はそんな こうじさぎょうちゅう はそんな
記録し、元の位置に戻して復旧しています。また破損していたものや、工事作業中に破損してしまっ
たものなどは、あたらしと か と つ さい たか ちょうせい め じ とお ととの
新しいものに取り替えました。取り付けに際しては高さを調整し、目地の通りを整え、
もと とお み ば なら
元の通りに見端よく並べていきます。



さいせっち まえ と はず まえ せっちやくざい
▲再設置する前に、取り外し前についていた接着剤をきれい
は 剥がしとります。この作業の際に古くて傷んでいる塼は
わ 割れてしまうことがあります。

しはんじき たか たてものほんたい そせき どだい たか しゅうい
▲四半敷の高さは、建物本体（礎石・土台）の高さと周囲の
いし きだん たか あ ひつよう はいすい そと
石の基壇の高さと合わせる必要があります。排水のため外
がわ きだんがわ ほう じゃっかんひく
側（基壇側）の方が若干低くなっています。



たてものそとがわ しはんじきふっきゅうじょうきょう いろ うす さいりよう
▲建物外側の四半敷復旧状況。色の薄いものが再利用した
ふる こ さいりよう しんきざい
古いもの、濃いものは再利用ができなかったため新規材
と か かしょ いま いろみ め だ
に取り替えた箇所。今はまだらな色味が目立ちますが、
しんきざい ふうか どうか
いずれ新規材も風化して同化していくはずです。

ないぶ しはんじき ふっきゅうじょうきょう ないぶ せん いた すく さいり
▲内部の四半敷の復旧状況。内部の塼は傷みが少なく、再利
ようりつ たか する も じ と はず まえ か
用率が高いです。記されている文字は取り外し前に書いた
い ち きろく ふごう ばんづけ もと い ち する
位置を記録するための符号（番付）で、元の位置を記した
ずめん みくら す つ
図面と見比べながら据え付けていきます。